

令和6年度 身延町住みやすさアンケート 集計分析結果報告書

報告日：令和6年10月23日(水)

回答期間：令和6年8月1日(木)～9月30日(月)

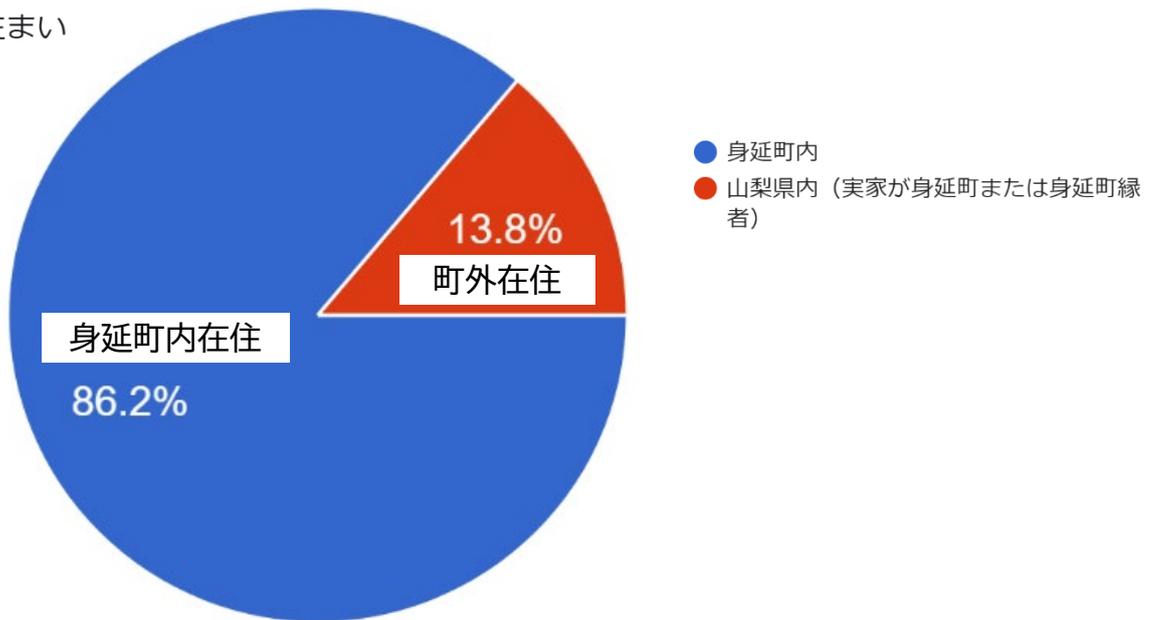
回答方法：スマートフォン・タブレット・PCなどのデジタル端末のみ

【回答数：542件】

- 問1. お住まい
- 問2. 性別
- 問3. あなたの世代は？
- 問4. どちらに子ども・孫は住んでいますか？
- 問5. 1 身延町の住みやすさ
2 身延町に住まない理由
- 問6. 1 これからも身延町に住み続けたいと思うか
2 身延町に住み続けたい理由
- 問7. 町外に移りたい理由
- 問8. 定住・移住・人口減少対策を促進するために、特に必要だと考えること
- 問9. 定住・移住・人口減少対策について
- 問10. 消滅可能性自治体・定住・移住・人口減少対策について思うこと（自由記述回答）

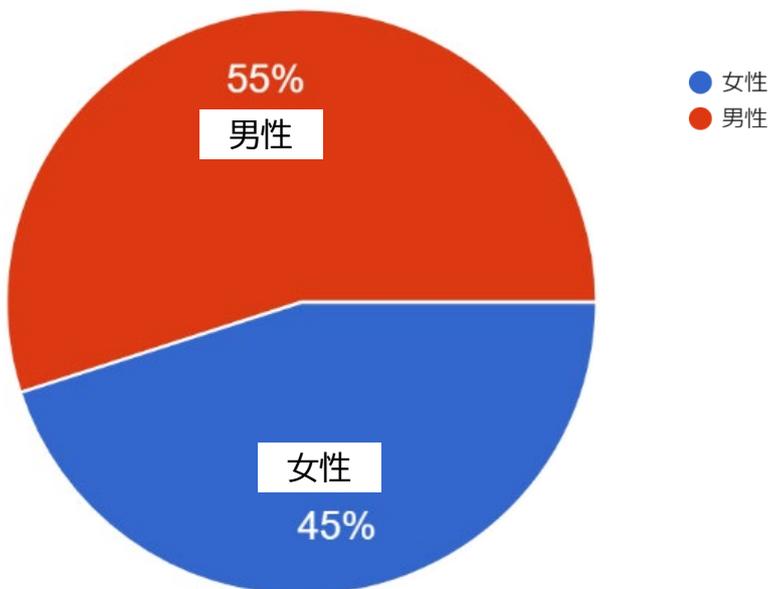
実施者：身延町議会 教育厚生常任委員会

問1. お住まい
542件の回答



回答数542件。令和6年8月1日現在の身延町の人口は、9,817人。回答率は5.52%。
周知方法は、議会だより79号、のぶ8月号(N0.239)に掲載、町役場・施設、町内事業所等にアンケートのQRコード記載の紙を配布などした。回答方法はスマートフォン・タブレット・PCなどのデジタル端末のみ。スマートフォンの個人保有率は78.9%、世帯保有率90.7%である(令和5年度通信利用動向調査・調査時点令和5年8月末)。このため多くの人と世帯で回答が可能であることは推測できる。

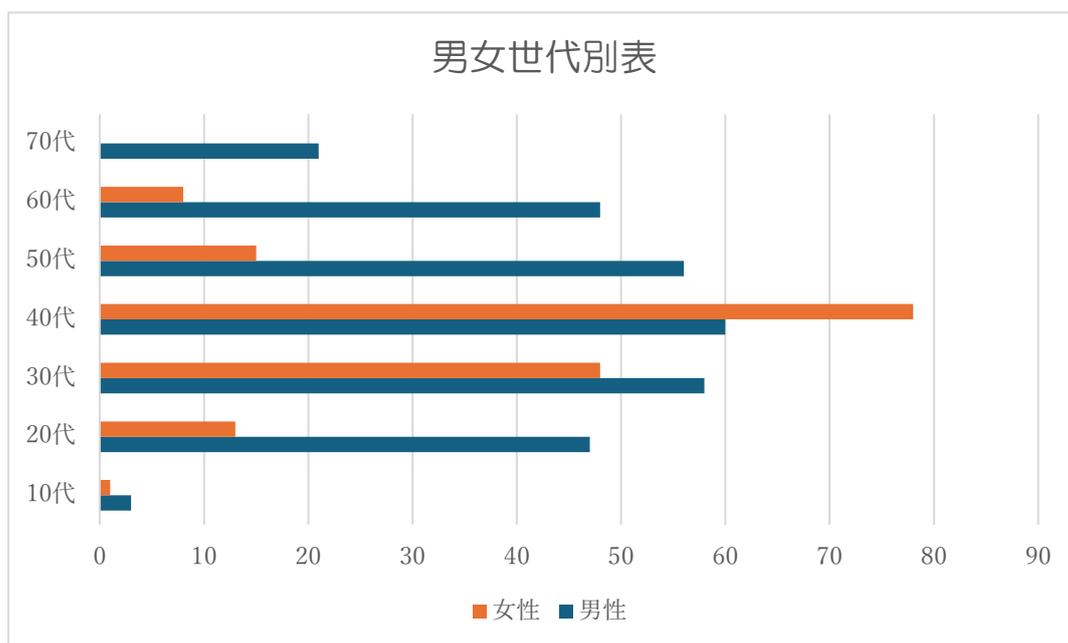
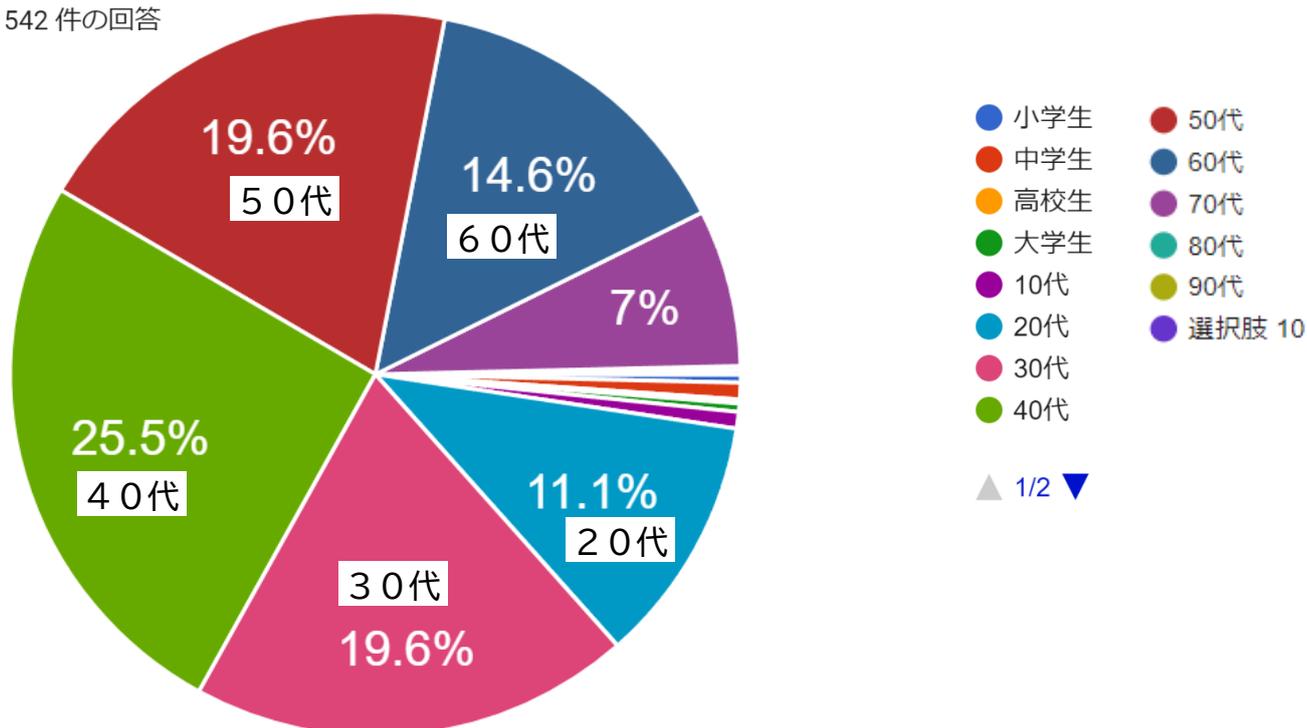
問2. 性別
542件の回答



回答人数524人。男性298人・女性244人。令和6年8月1日現在の身延町の男性人口は、4,808人、女性5,009人。男性回答率6.19%、女性回答率4.8%。回答率はやや男性が多かった。

問3. あなたの世代は？（小学生以上）

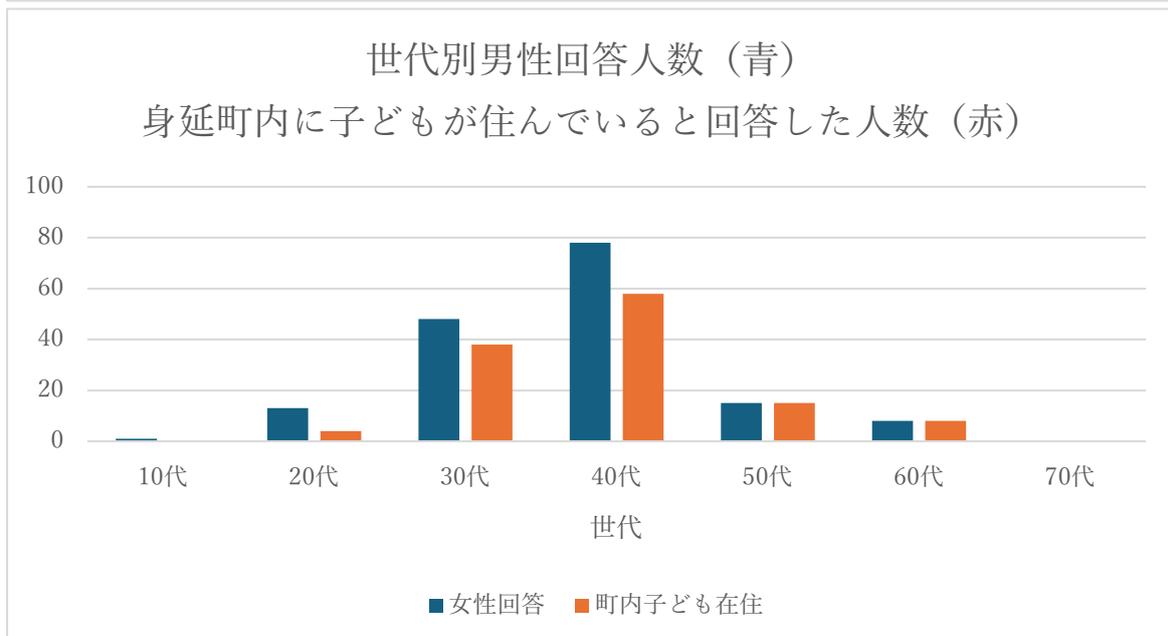
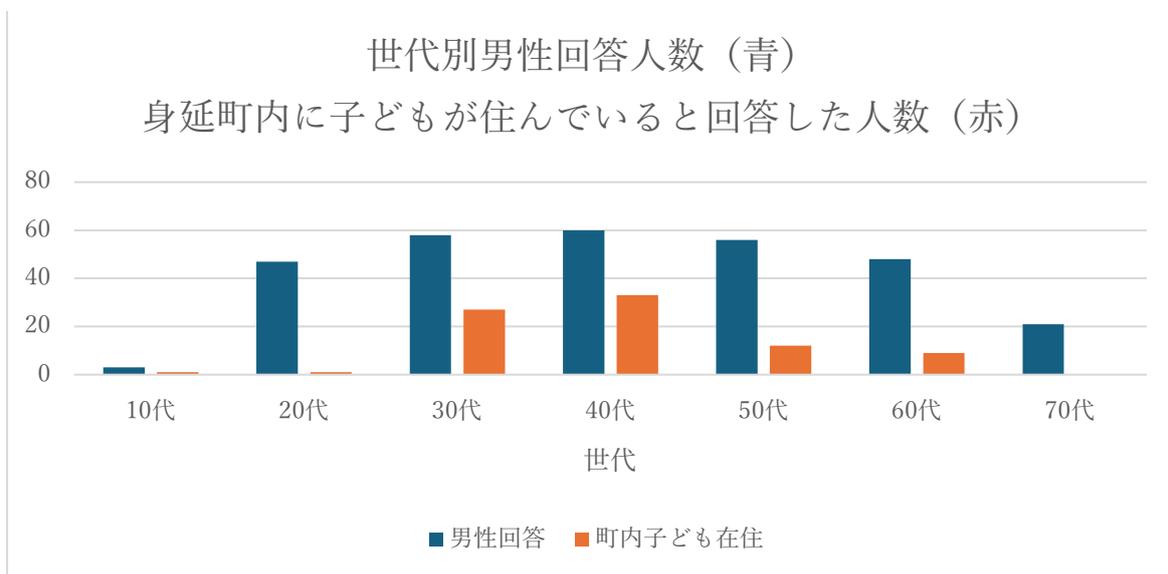
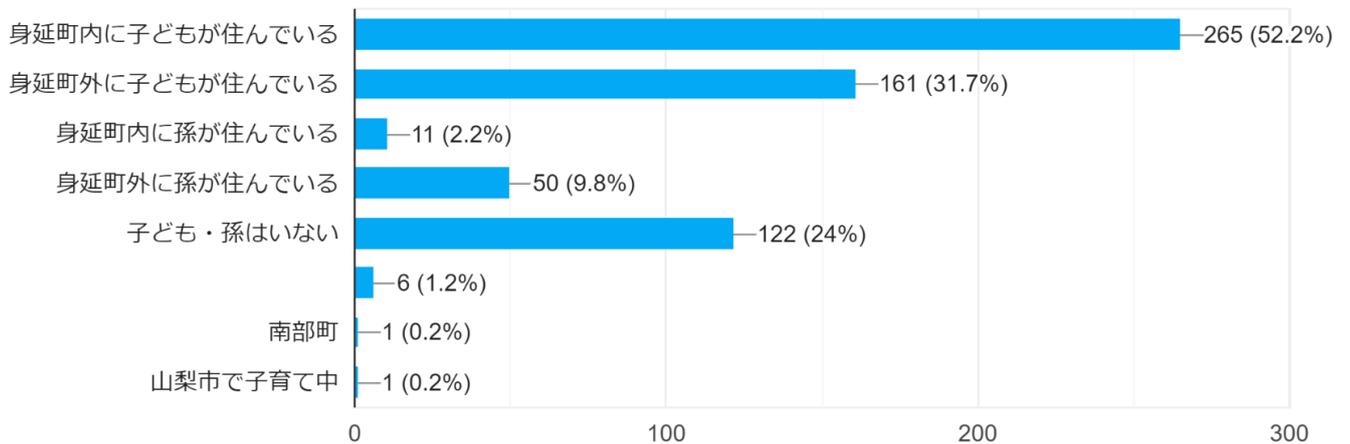
542 件の回答



世代別では30代と40代と若い世代（子育て世代を含む）の回答が多く、住みやすさアンケートへの関心が高いことがわかった。特に若い世代（子育て世代）の女性の回答が多い。次の問4の回答からの分析で子どもの将来を子育て世代の女性に関心を示していることがわかった。また70代の女性の回答がなかった。高齢化率が50%を越えた身延町に（約2人に1人が65歳以上）において、検証してみると若い世代の回答率が高いことがわかる。

問4. どちらに子ども・孫は住んでいますか？（いる方のみ回答）

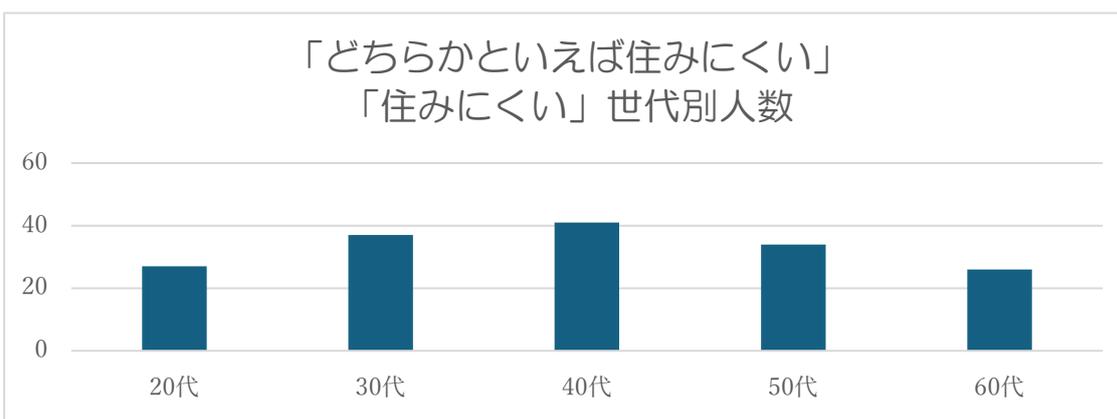
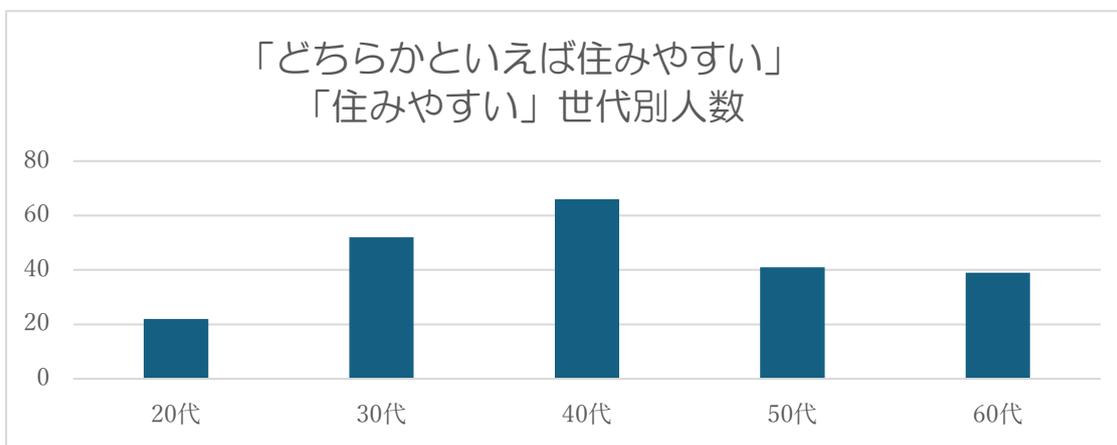
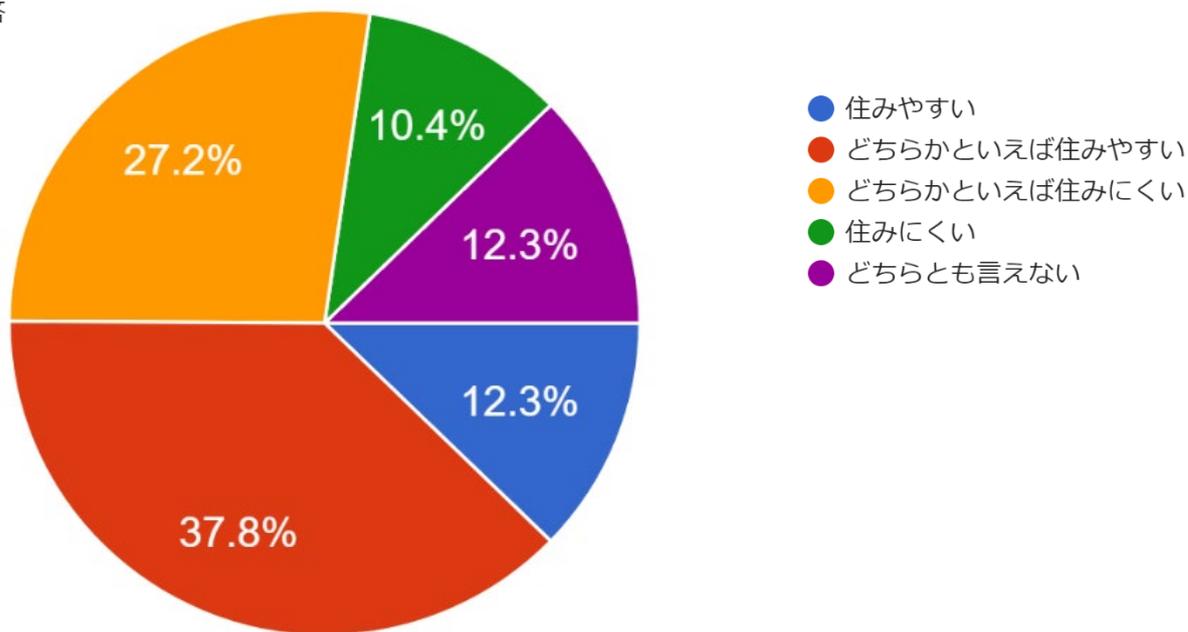
508件の回答



問3から30代～40代の女性の回答が多いが、その多くが町内に子どもが住んでいる子育て世代である。子どもの将来、自分たちが高齢になったときの身延町がどのようになるのかに危機感をもっていることだと考える。

問5-1. (身延町内在住者のみ回答) 身延町の住みやすさ

489件の回答

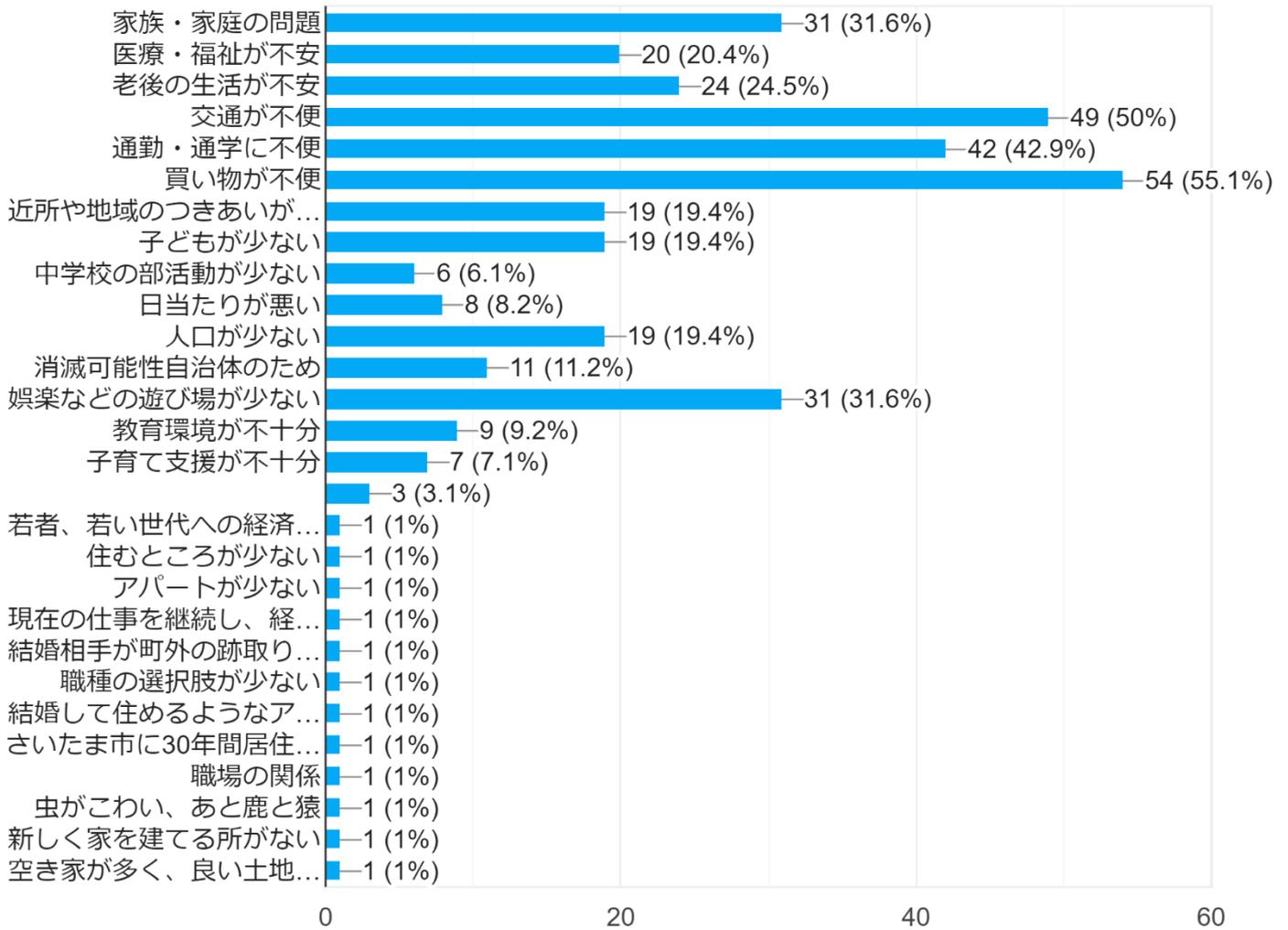


※全ての世代は入っていません

身延町内在住者のほぼ半分が「どちらかといえば住みやすい」・「住みやすい」とである。「どちらかといえば住みにくい」・「住みにくい」は4割弱。身延町内在住者の回答としては、4割弱は多いと捉えるべきである。20代の若い世代のみ「住みにくい」が上回っている。この世代に住みやすいと感じてもらえないと町外へ移り住んでいく若い世代が多くなるのではないかと分析する。

問5-2. (身延町外在住者のみ回答) 身延町に住まない理由(複数回答可能)

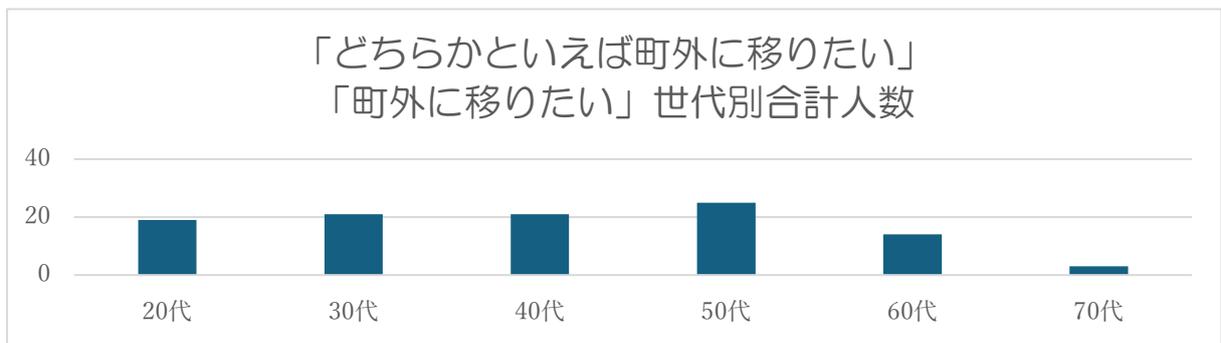
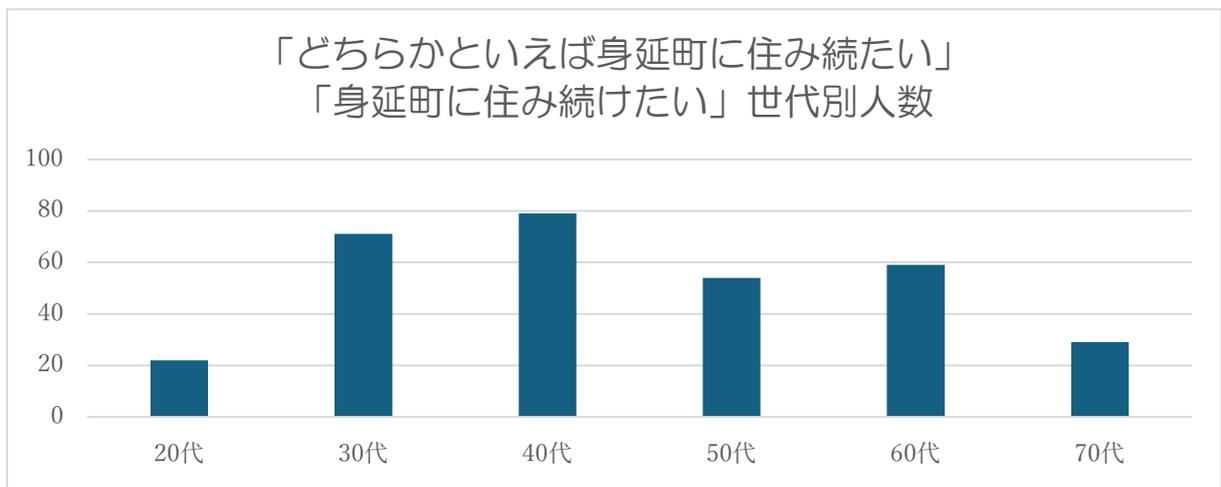
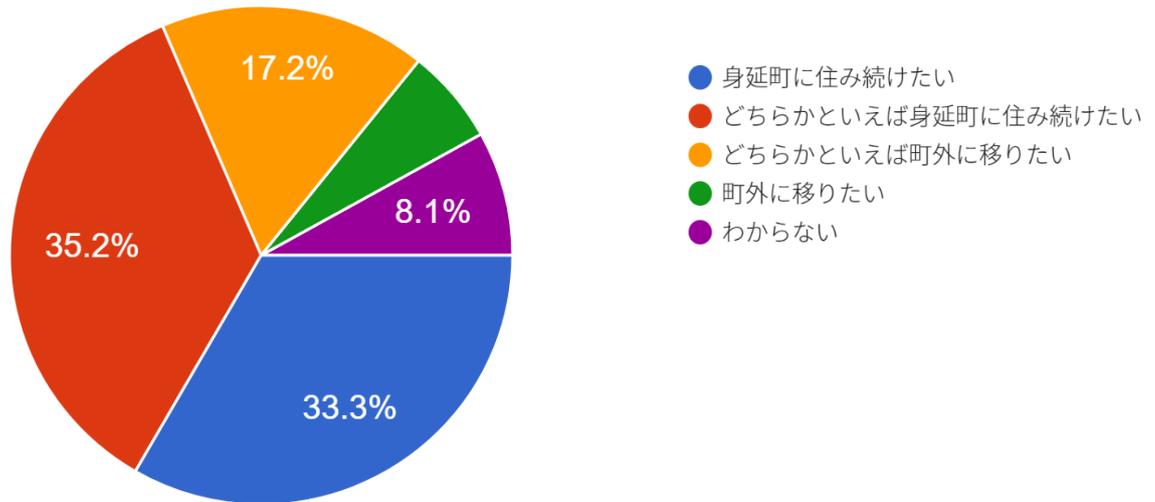
98件の回答



身延町外在住者の「身延町に住まない理由」の多くが買い物・交通・通勤・通学の不便。

近隣にお店や働き場や学校がないこと(あるが選択肢が極端に少ない)と娯楽などの遊び場が少ないことは若い世代(子育て世代)にとっては大きな理由になっている。続いて医療・福祉・老後の生活などの不安は各世代で回答が見られる。家族・家庭の問題も多い。

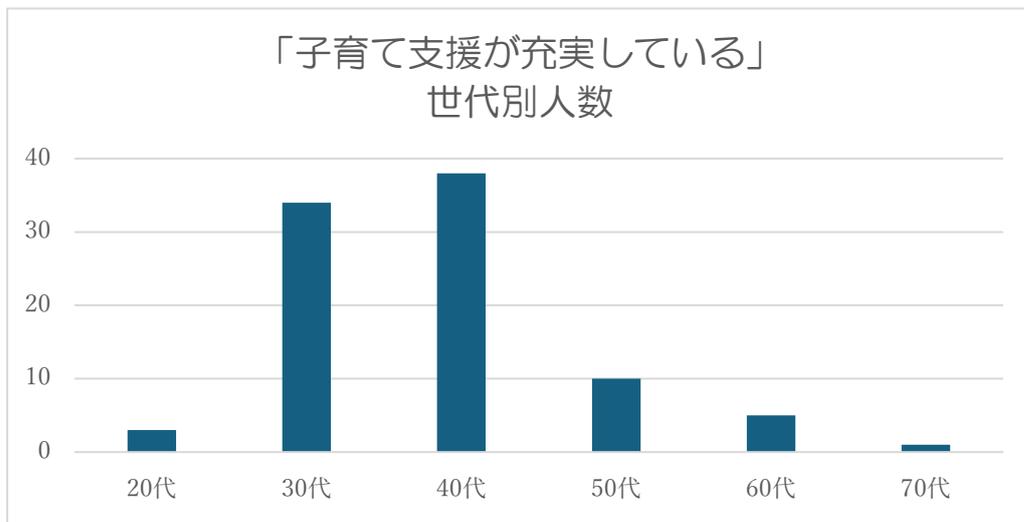
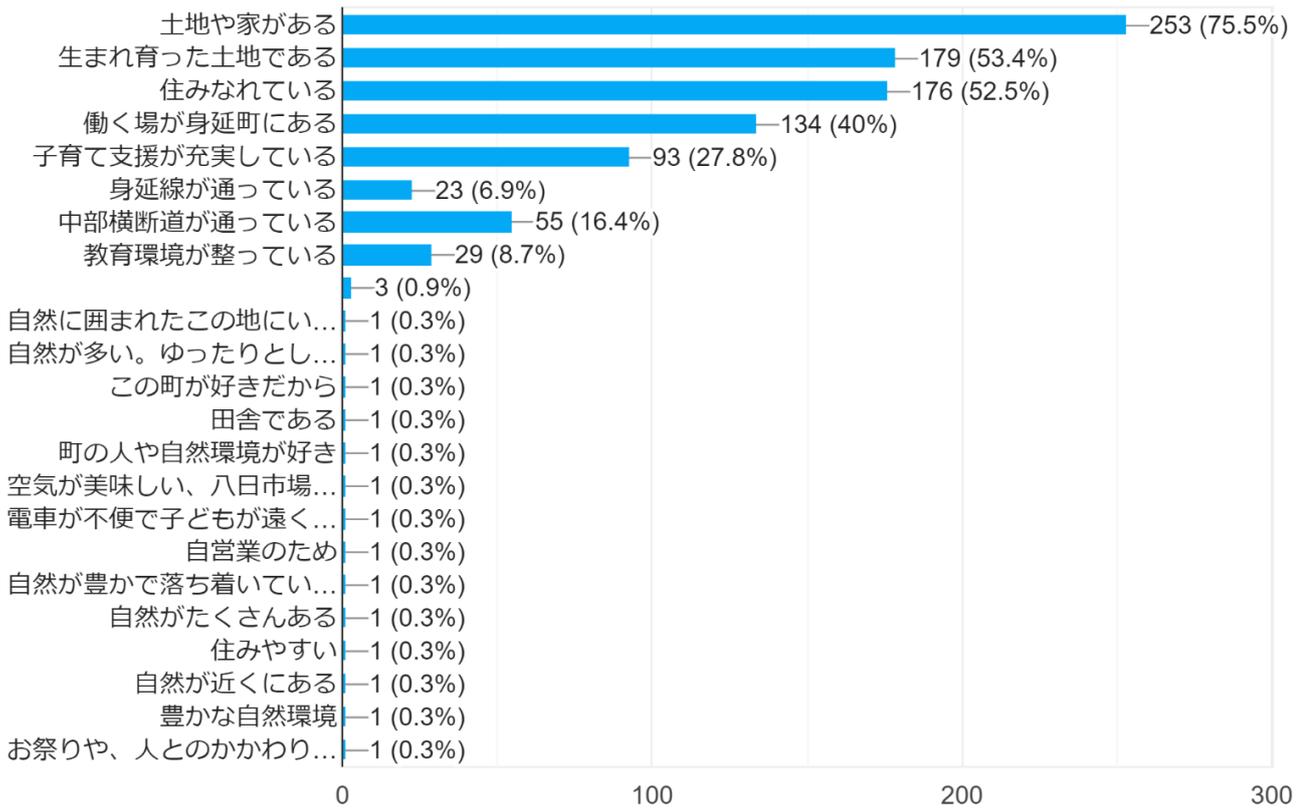
問6-1. (身延町在住者のみ回答) これからも身延町に住み続けたいと思うか
471件の回答



※全ての世代は入っていません

「どちらかといえば町外に移りたい」「町外に移りたい」が一定数ある。やはり20代の若い世代はこれから子育てや結婚を考えてゆく上で住み続けるのか町外に移るのかを悩んでいるように分析する。定住していると仕事や学校などの関係で簡単に移りたいとは言えない現状もある。

問6-2. (身延町在住者のみ回答) 身延町に住...答可能 ※問6で1か2と選択した方のみ回答
335件の回答

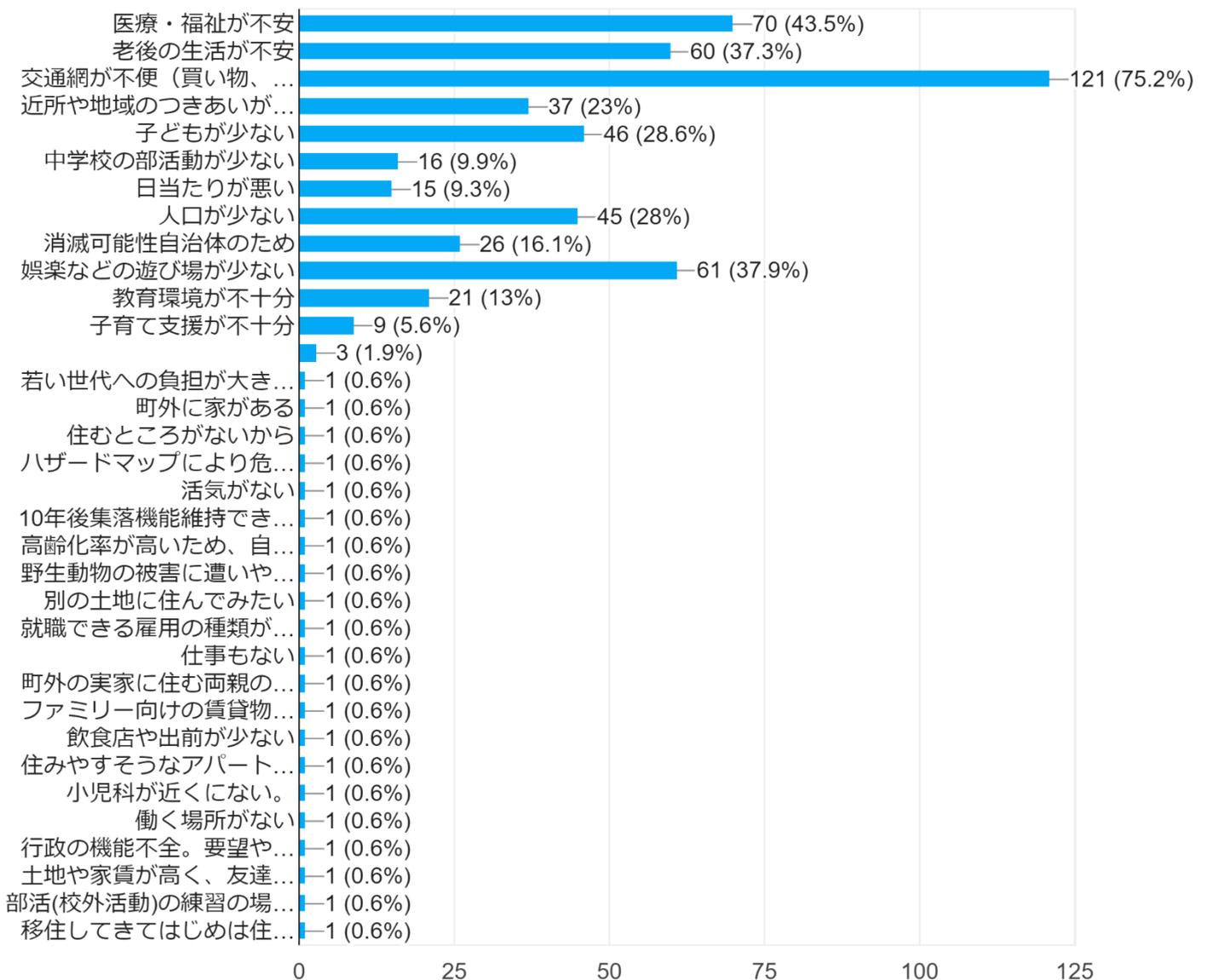


※全ての世代は入っていません

やはり一番多かった回答は「土地や家がある」で、続いて「生まれ育った土地である」「住みなれている」が多い。代々この地に住んでいる人は土地や家もあり、住み続けたい理由になっている。働き場も一因になっている。中部横断道が開通して住み続ける理由になっていることは道路整備の大切であることがわかる。子育て支援充実しているも子育て世代から高評価を得ている。

問7. (身延町在住者のみ回答) 町外に移りたい...能 ※問6-1で3か4と選択した方のみ回答

161件の回答



圧倒的に「交通網が不便(買い物・通勤・通学・通院など)」が町外に移りたい理由が多い。問6-2で「中部横断道が通っている」が身延町に住み続ける理由の一つとしての回答が複数あったことを考慮すると道路整備がある程度の住みやすさには必要があると分析できる。

医療・福祉・老後の生活の不安が続いて多いが、自由記述などをみると交通網の不便さとの関係がみられる。

「娯楽などの遊び場が少ない」は若い世代(子育て世代)には、とても大切な事だと認識する。

「子どもが少ない」、「人口が少ない」若い世代にはPTAや地域の役などがあたり大変だと自由記述にある。

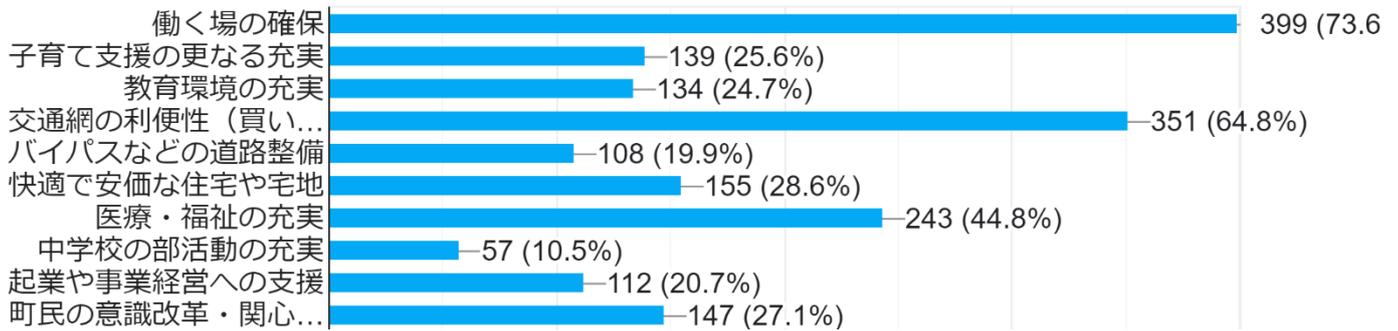
「近所や地域のつきあいがわずらわしい」も自由記述には複数みられる。

中学校の部活動が少ない、教育環境が不十分についても自由記述に複数みられる。

人口減少によって、負の連鎖が起きている。

問8. 定住・移住・人口減少対策を促進するために、特に必要だと考えること（複数回答可能）

542 件の回答

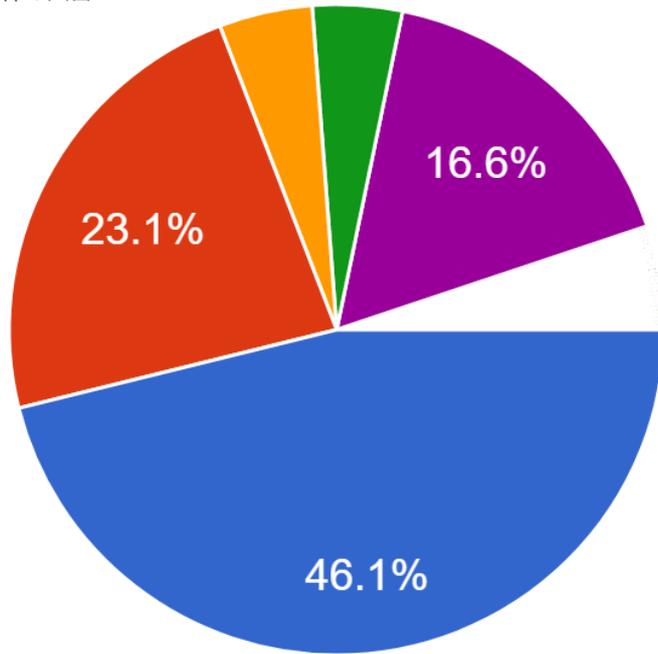


※複数回答のみ掲載

働く場の確保が多く、続いて交通網の利便性（買い物・通勤・通学・通院など）、医療・福祉。どれも住みやすさと同じく定住・移住・人口減少対策促進にも重要あることがわかる。

定住・移住・人口減少対策促進に大切な「快適で安価な住宅や宅地」、「町民の意識改革・関心の高さ」も多い。

問9. 定住・移住・人口減少対策について
542 件の回答



- 町政には最優先で取り組んでほしい
- 町政に取り組んでほしい
- 議会に取り組んでほしい
- 現状のままでいい
- 仕方がない
- 移住受けるより、今いる住民を大切に...
- 国全体が人口減の中、対策するにもか...
- 町民の意識改革
- 質問が抽象的でよくわからない。
- 誰かがではなく、町、議会、町民が同...
- 町は他に例がないくらい支援に取り組...
- 町政の問題ではなく、住民1人1人が...
- 町へ意見するだけでなく議員も主体的...
- 行政と住民が共に考える
- それぞれの立場で前向きに取り組むこ...
- 変わる気がない人ばかりでは仕方がない
- 町政、議会、町民一体の取組み
- 考えの違う人がくるのは、もともとす...
- 議会には能力が無い為、首長が攻める...
- 市町村レベルではなく県レベルで考え...
- 町民と行政との一体感が重要
- 人口を増やす事は最優先だと思います...
- 良い点ばかりではなく、悪い点もしつ...
- 具体的な対策が出来てないと前に進め...
- 身延町のみならず峡南地区全体で共通...
- 今の町政の本気度がわからないので、...
- 人口減を前提とした取組みを・・・...
- 定住したいが、空き家の受け入れ体制...
- 町政ばかりに頼らず、町民の意識改革...
- 町長、議員、役場職員など一掃して意...
- 子育て世代や青少年に魅力ある町づく...
- 町民の意識を変えることが必要
- もう少し色々な意見を取り入れたほうがいい

約70%が「町政に取り組んでほしい」と望んでいる。また約50%が「町政には最優先に取り組んでほしい」と回答している。

限界を感じてか「仕方がない」の回答も多い。

問10. 定住・移住・人口減少対策について（自由記述）

回答 232 件／542 件 回答率 42.8%

回答をカテゴリ分けを行い、多い順に並べました。

主要内容のみでできるだけ重複を避けての掲載になります。

1. 子育て・子ども・教育
2. 交通網
3. 住まい・空き家・空き地
4. 働き場
5. 医療
6. 移住・定住
7. 行政・議会
8. その他

1. 子育て・子ども・教育

- ・町は十分な子育て支援をしている
- ・不要な町の役員、毎年のようにまわってくる PTA には疲れてしまう
- ・子どもの学び場や習い事は少なく、都会の子と差が出てしまう
- ・子育て世代のコミュニティを町が支える工夫や仕組みに期待する
- ・子どものスポーツ活動を考えた町ではない
- ・働く場所がない。家を建てたくても、土地を売ってもらえない。家を建てる場所がない
- ・身延清稜小学校の児童の人数がかなり減っている。統廃合するような動きはあるのでしょうか
- ・少子化による学校統合により通学距離が長くなり子育て世代は住みにくく感じる
- ・子育て支援が充実している。保健師さんやすこやかセンターの皆様は、子育て、福祉に向き合っている
- ・小学校を1校にして、児童をまとめてほしい。たくさん子どもたちの中で友達を作って欲しい

2. 交通網

- ・交通網の不便
- ・道路整備の促進をしてほしい
- ・中部横断道の無料区間の拡大（増穂 IC まで）
- ・買い物が不便
- ・三沢～市之瀬間バイパスを早急に開通させてほしい
- ・良いところだけど、交通網が悪すぎる。1人では通院も買い物もできない
- ・将来、車の運転ができなくなるととても不安である

3. 住まい・空き家・空き地・移住・定住

- ・アパートが少ない
- ・宅地の確保
- ・安くて広いアパートを増やしてほしい
- ・若者が住みたいと思うアパートがない
- ・空き家の有効活用。家賃を安くして貸すなど
- ・分譲地を提供して住んでもらう
- ・居住エリアを集中させる
- ・空き家を更地にしやすいように、更地の税金を免除して、次の人が住みやすいようにしてほしい
- ・婚活と安価な住宅確保

4. 働き場

- ・大きな企業がないため、子どもも帰ってきたくないとっている
- ・若者の働く場を増やしてほしい
- ・職場も少なく、職種も少なく、給料も安いので他の所に働きにいきます
- ・子どもに働く場所がないため、定住を進められない
- ・中部横断道を活用できるところを推し、企業誘致

5. 医療

- ・身近な病院ですぐに診てもらえるような医療体制が必要
- ・救急で1時間医療的なケアができなければ死ぬ。そんなところに若者が住み着くはずがない
- ・小児医療の充実。毎日通える小児科・子ども緊急医療センターがあったらいい

6. 移住・定住

- ・良い点ばかりではなく、悪い点もしっかりと伝えた上で、移住者を募ってほしい
- ・移住体験会みたいなものも、町の上辺だけを見るものが多いので、子育て世代の移住検討者には子育て支援課の方と身延の子育てママ達とリアルに話をして検討できる場を設けた方がいい
- ・体験者に良しも悪しもアンケートをもらって悪い点を知り、改善すべき点を見つける
- ・働く場所が少なく、住む場所も少ないことが移住・定住をしない要因かと考える
- ・移住手当が空き家バンクを介さないとももらえないのは残念。額が減ってもいいの、不動産屋を介してでももらえたら魅力的
- ・高齢者の移住者を増やしたくないのかもしれませんが、移住者を呼べるポイントを持っておくべき。

7. 行政・議員

- ・議会には能力が無いため、首長が攻める行政に取り組む
- ・今の町政の本気度がわからないので、外部のNPOなどの自治体のサポート団体の方が期待を持てる
- ・町長、議員、役場職員など一掃して意識を抜本的に変えなければ何もかわらない
- ・長く身延に住んで商いをしている人や役場の雰囲気は、危機感をもって変えていきたいという気持ちを感じられないので、変えていこうとする人がいても嫌がられたり、干されたりするのが現状ではないでしょうか
- ・西嶋の道の駅やヘルシーSPAサンロードにお金をかえるならもっと別のことにお金をかけるべき
- ・箱物を増やしすぎて、身延町の人口が減少しているのに財政に余裕があるのでしょうか
- ・若者、子育て世代に力を入れた町政・議員活動がされていないし、子育て世代への負担が大きい（税金・労働環境・町や地区行事や活動）
- ・危機感が感じられない。西嶋和紙の里（道の駅化）に8億円ですか？その金額をかける価値はあるのでしょうか人口減少対策など他に使ってほしい。道の駅みのぶ、道の駅なんぶがあるのにこの近距離に3つも必要ですか
- ・役場職員の町愛の意識を高め、どうしたら町のため、町民のためになるか考えてほしい
- ・旧中富と旧身延がひとつになっていないと感じる。自分たちだけがよければ良いという考えをやめ、身延町として存続、よりよい環境にしていくことを考えてほしい
- ・町と町民との会話。民意が伝わらないため、町民会議的なものをつくり、各分野ごとに町民有志も募り、町、議員、町民の参加型が望ましい
- ・町へ意見するだけでなく、議員も主体的に行動してほしい
- ・議員をみても危機感を感じない。行政を批判することはするが、具体的な方法も示してほしい。
- ・議員に話をしても、具体的に動かない

8. その他

- ・もう少しいろいろな意見を入れた方が良い
- ・町政の問題ではなく、住民1人1人が自身の問題として、考え行動していく必要がある
- ・全国的な問題。身延町だけの問題ではない
- ・若者、よそ者、馬鹿者の意見を聞く耳があるかどうか
- ・田舎暮らしの良さはたくさんありますが、地域の集まりや行事、消防団の活動、葬儀の手伝いなど、昔ながらの風習が多く、子育て世代には負担に感じる。大切なことかもしれませんが、今の時代には合っていないことも多々あり、方法を変えていくなど少しずつでも改善していかないと、どんどん若い人達は外に出ていってしまう。
- ・町民の意識改革が必要
- ・全国的に人口減少しているため、人口減少は仕方がない。不便な地域なため、対策にも限度がある。町民の幸福度上昇の施策に舵をきってほしい
- ・できるだけ町として機能が存続するように、集約化や連携を進めていくべき
- ・若い人は買い物するところ、飲食、娯楽の場がないとなかなか来ない
- ・交通手段がなかったり、買い物できる場所が限られていたり、働く場所がなかったり、いろいろな問題が重なっている
- ・中学校も新しく下山にできたので、分譲地などがその周辺にできたら便利
- ・